

もしもの時に慌てない。故人のネット口座 見つけ方ガイド

故人が遺したネット銀行やネット証券の口座を見つけるための、安全な調査手順を解説します。
目的は残高を見ることではなく、証拠をもとに金融機関の「相続窓口」を特定し、次の手続きへスムーズに進むことです。

始める前の3つの「しないこと」



1. スマホの回線契約を急いで止めない
本人確認コードが受け取れなくなり、
手続きが止まる危険があります。



2. ID・パスワードで勝手にログインしない
家族でも不正アクセスと見なされる可能性
があり、目的は口座の特定までです。



3. 端末の初期化やデータ削除をしない
スマホやPCは手がかりの交箱。整理や処分は
全ての調査が終わってからにしましょう。

手がかりを探す5つの場所



1. メールを調べる
「電子交付」「取引報告書」
「本人確認」等のキーワードで
検索するのが近道です。



3. パソコンを調べる
ブックマークやダウンロードされたPDF
(取引報告書など)を確認しましょう。



2. スマートフォンの中を探す
銀行アプリの他、家計簿アプリや認証
アプリも重要な手がかりになります。



5. 確定申告書類を確認する
配当や株式売買の記録があれば、
利用していた証券会社などが特定できます。

候補メモ(例)

金融機関名(仮)	証拠(どこで見つけたか)	種別
漢式証券	メールの件名「電子交付」	証券
住信SBIネット銀行	スマホにアプリあり	銀行
PayPay銀行	連絡の履歴表に記載	銀行



4. 紙の書類・通帳を見る
郵便物の封入人や、既存の銀行通帳の
「振替額」に振込先のヒントがあります。

証拠の強さで
優先順位をつける

「取引報告書」や
「公式アプリ」など、
確実なものから連絡を
始めましょう。



ゴールは「相続窓口」への連絡
金融機関の公式サイトで相続専用窓口を話し、
口頭の旨を確認したいと伝えます。



故人の想いをたどる 「連絡先の地図」の作り方

ネット銀行・証券口座を見つけるための、
安全な探索ガイド



ご家族を亡くされ、気持ちの整理もままならない中、
様々な手続きに追われていることとお察しします。

この資料は、故人のデジタル資産という未知の領域を、安全に歩むための「地図」です。
一つずつ、あなたのペースで進めていきましょう。

このガイドが目指す、たった一つのゴール
故人が利用していた金融機関を
「証拠」とともに見つけ出し、
正規の「相続窓口」へつなぐこと。



やること

- ✓ 安全に金融機関の候補を見つける
- ✓ 連絡すべき窓口を特定する

やらないこと

- ✗ 故人のID/パスワードでログインする
- ✗ 口座の残高を調べる
- ✗ 凍結解除や払戻しの手続きそのもの

探索を始める前に。必ず守ってほしい3つの原則



スマホの回線契約を急いで止めない

重要な手続きに必要な『二段階認証コード』が届かなくなります。
料金が気になる場合は、最低限のプランに変更して回線を維持してください。



ID・パスワードで勝手にログインしない

契約上、本人以外の利用は想定されていません。
目的は残高を見ることなく、「金融機関名」の確認です。



データを初期化・削除・処分しない

スマホやPCは手がかりが詰まった「宝箱」です。焦って整理する必要はありません。判断はすべての情報共有が終わってからで十分です。

迷子にならないための道具、「候補メモ」を作しましょう

「候補」と「根拠」を必ずセットで記録する

頭の中だけで調べると、情報が混ざってしまい必ず混乱します。
紙のノートでも、スマートフォンのメモアプリでも構いません。
見つけた「金融機関の候補」と、「どこでそれを見つけたかという根拠」
を書き留めていくことで、あなたの現在地と次の一步が明確になります。

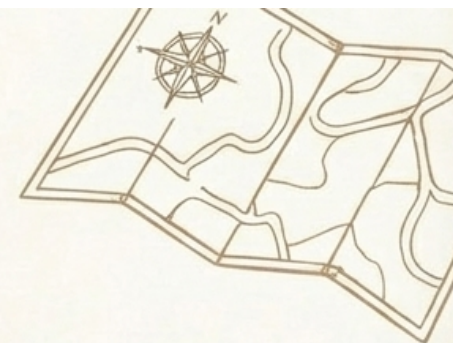
- 🕒 「楽天証券 / 根拠：メール件名に"電子交付"」
- 🕒 「住信SBIネット銀行 / 根拠：スマホにアプリあり」
- 🕒 「PayPay銀行 / 根拠：通帳の摘要欄に"ジャパンネット"の記載」



根拠のない推測（「多分〇〇銀行を使っていた気がする」など）
は書かないようにします。後で混乱の原因になります。



「候補メモ」に記録する4つの項目



Candidate Memo			
<u>金融機関名</u> (候補)	<u>種別</u>	根拠 (どこで見たか)	<u>次にやること</u>
〇〇銀行, 〇〇証券	銀行 / 証券 / 家計簿アプリ / 決済アプリ	メール件名, スマホアプリ, 通帳の摘要欄, 郵便物の差出人	公式サイトで 「相続窓口」 を調べる



根拠が弱いと感じたら「根拠：弱い(偽メールの可能性あり)」などとメモしておけば大丈夫です。判断は後回しにして、まずは材料を集めることに集中しましょう。

手がかりの宝庫、「メールの海」を探る



ネット銀行や証券からの連絡は、メールに集約されています。
ここを押さえるのが最短ルートです。

The Right Keywords

「銀行」で検索すると広告に埋もれてしまいます。
狙うのは、本人にしか届かない「取引の匂い」がする言葉です。

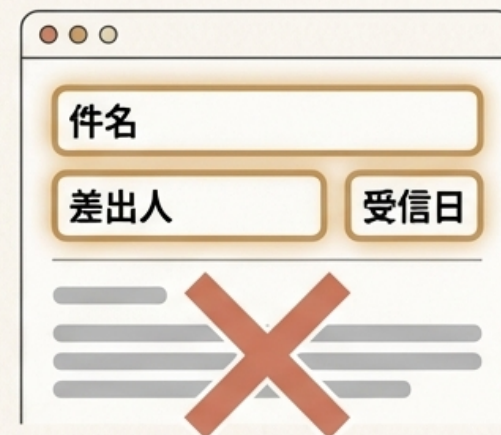
- 🔍 口座開設、受付、本人確認
- 🔍 電子交付、取引報告書、年間取引報告書
- 🔍 入金、出金、振込、約定
- 🔍 ワンタイム、認証、ログイン通知

Recommended Search Strategy

1. まずは金融機関名で広く検索
2. 次に上記の「取引の匂いワード」で検索
3. 最後に「電子交付」「取引報告書」など確度の高い言葉で候補を固める

メールの安全な歩き方：見るのは3つだけ、リンクは押さない

本文のリンクは絶対に押さないでください。
見たいのは「件名」「差出人」「受信日」の3つだけです。
これらをメモすれば、根拠として十分です。



偽メールに注意

「重要」「口座凍結」「至急確認」といった、不安を煽る件名には特に注意が必要です。



Safe Action

偽メールだと感じて、差出人や件名を「根拠：偽メールっぽい通知」としてメモしておきましょう。
その後、必ず検索エンジンから公式サイトを探し、「相続」の案内を確認します。

スマートフォンで拾う手がかり：見るのは3つの場所だけ

スマホが開ける場合、情報量が多いですが、見る場所を絞らないと疲れてしまいます。

目的は「名前」と「痕跡」を拾うこと。ログインは不要です。



アプリ一覧

銀行・証券の公式アプリはもちろん、後述する「家計簿アプリ」や「認証アプリ」が重要な手がかりになります。



通知センター

入金や取引報告の通知に銀行名が残っていることがあります。スクリーンショットを撮っておくと共有に便利です。



SMS

(ショートメッセージ)

「認証」「ワンタイム」といった証コードのやり取りが残っていることが多いです。本文中のURLは絶対に押さないでください。

顔認証や指紋認証で止まったら、そこで大丈夫です。
無理に突破しようとししないでください。

アプリは周辺もチェック：「近道」になる3つのアプリ



家計簿・資産管理アプリ

複数の銀行や証券口座をまとめて管理するため、このアプリがあるだけで口座を複数持っていた可能性が高まります。開けるなら「連携先一覧」が口座リストそのものです。



認証アプリ

Google Authenticator,
Microsoft Authenticatorなど

金融取引のセキュリティを固めていた強い証拠です。見落とされがちですが、これがあるならネット金融サービスを使いこなしていた可能性が高いです。



決済・投資ツールアプリ

FX、暗号資産（Crypto）など

銀行や証券とは別に、専門の口座が存在する可能性を示します。

紙の世界に残る痕跡：郵便物・カード・そして通帳

郵便物とカード類



ネット金融でも、カードの送付や規約変更などで年に数回は紙の郵便物が届きます。



未開封の封筒や、財布の中のキャッシュカードが唯一の「物証」になることもあります。



判断せず、まずは金融機関名が書かれたものを一箇所に集めましょう。

通帳は「逆探知レーダー」になる



故人が給与振込などに使っていたメインバンクの通帳が、ネット口座の痕跡を発見する鍵になります。

「摘要欄」を見てください

ここにカタカナの略称で振込先や引落元の名前が記載されています。

例：「ジャパンネット」→旧PayPay銀行 (Japan Net Bank)

わからない略称は、その通帳の銀行に正式名称を問い合わせるのが安全です。



決定的な証拠の宝箱：PCのファイルと確定申告書類

PCに残された手がかり



ブックマークと閲覧履歴

「銀行」「証券」「ログイン」などの単語で検索。



PDFファイル

ダウンロードフォルダやデスクトップにある「取引報告書」「年間取引報告書」といった名前のファイルは極めて強力な証拠です。



ブラウザのパスワード管理機能

保存されているサイト一覧から金融機関名を特定できます。

❗ ログインは絶対にしないでください。

確定申告書類

令和XX年分 確定申告書

項目	内容
発行行名	[Redacted]
金額	38,150円
取引報告書	[Redacted]
年間取引報告書	[Redacted]
支払調書	[Redacted]
その他	[Redacted]

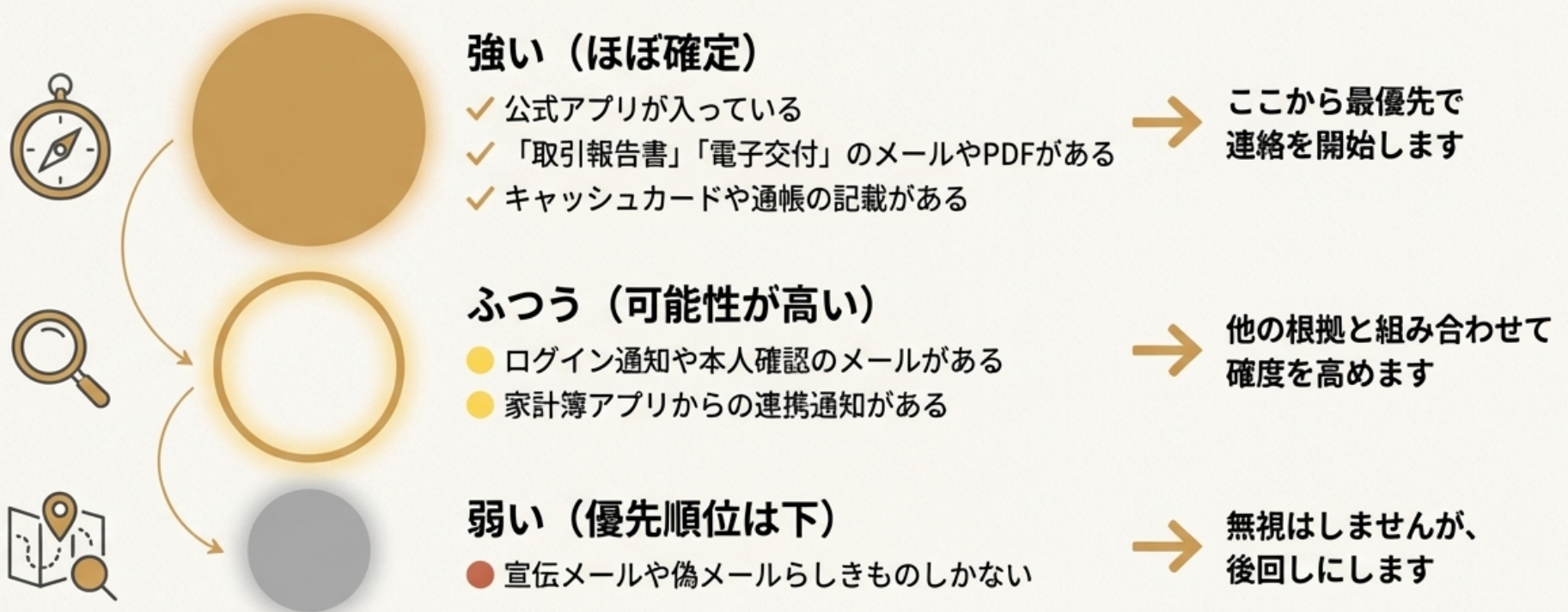
投資による配当や売買益などがあれば、必ず添付書類に金融機関名が記載されています。

「年間取引報告書」や「支払調書」といった添付書類。数字を理解する必要はありません。

「どこから発行されたか」だけ確認してください。

地図を整理する：「根拠の強さ」で優先順位をつける

候補が増えてきたら、どこから連絡すべきか迷います。
根拠の強さで「強い・ふつう・弱い」の3段階に分けてみましょう。



次のステップへ：相続窓口につないで「必要なもの」を聞く

窓口を探す



メールのリンクからではなく、必ず検索で金融機関の**公式サイト**を開きます。

サイト内で「相続」「お手続き」「お問い合わせ」のページを探してください。

何を伝えるか



「家族が亡くなりました。口座の有無を確認し、相続手続きについて伺いたいです。」

これで十分です。口座番号が不明でも問題ありません。

何を聞くか

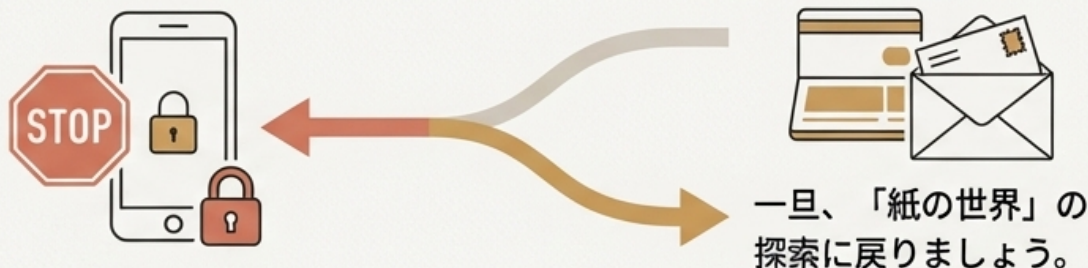


この段階のゴールは、手続きに必要な書類を教えてもらうことです。一度にすべてを揃えようと焦らないでください。

必要な書類は金融機関ごとに異なります。担当者の案内に従い、メモを取りましょう。

行き詰まったら：「端末が開けない」場合の対処法

「スマホのロックが解除できない」「メールのパスワードが分からない」。これは非常によくある状況です。
無理に突破しようとししないでください。危ない方法に頼る必要はありません。



1. 通帳の摘要欄

ネット口座の入出金の痕跡が最優先です。



3. 確定申告書類

保管場所を探してみましょう。



2. 郵便物の差出人

金融機関からの封筒がないか再確認します。



4. 財布やカード入れ

見慣れないカードがないか確認します。

ここで候補が一つでも見つければ、**正規の相続窓口へ問い合わせる道が開けます。**
「何もない」のではなく、「まだ見えていない」だけです。

まずは最初の30分。 この一歩が、あなたを闇探しから解放します。



最初の10分
「候補メモ」の
フォーマットを
紙に書く



次の10分
メールで「電子交付」
「取引報告書」を
検索してみる



最後の10分
スマホのアプリ一覧を
眺めてみる

たったこれだけで、最初の「印」が地図に書き込まれます。
あなたはもう、手探りではありません。
ご自身で描いた地図を手に、次の一歩へ進むことができます。
焦らず、一つずつ、着実に。



[illegible]